

## (10) 水源地域活性化調査の活動内容

「水源地域活性化調査」において、各地で実施された活動を分類すると、①特産品開発、②観光・交流、③その他となります。

このうち、特産品開発や観光・交流は、国土交通省が実施した『水源地域（水の里）の共同プロモーションに関する検討会専門委員会』において、「水源地域の保全と自立のためには、住民の生活の糧になる地域の製品の販売促進や観光客の誘致が必要」と位置づけられており、水源地域の活性化における有効性が認められています。

水源地域活性化活動を推進していくにあたっては、

- ◆「特産品開発」と「観光・交流」に共通しているポイント（例えば、地域が一体となる組織の立上げ、アドバイザーの確保、ターゲットの設定など）
- ◆「特産品開発」に必要なポイント（例えば、加工施設の確保、デザインの設定など）
- ◆「観光・交流」に必要なポイント（例えば、地域ならではの活動フィールドの確保、プログラムの開発など）

があり、適切なタイミングに効果的な取組を実施していくことが重要になります。【詳細は、「第3章水源地域活性化活動の実施手順の提案」をご覧ください。】

水源地域活性化調査の実施内容の分類

	特産品開発	観光・交流	その他
川治ダム	○食のメニュー開発	○体験プログラムの充実・提供	◎施設の活用
志津見ダム	○農産物の販売 ○特産品の開発	○体験プログラムの開発・提供	
嘉瀬川ダム	○特産品の開発	○体験プログラムの開発・提供	
平取ダム	△特産品の開発	○施設の有効活用	
梁川ダム	△特産品の開発	◎施設の有効活用	
平瀬ダム		◎体験プログラムの開発・提供	○アクションプランの開発
日吉ダム	◎薬膳料理の開発・提供	○健康増進プログラムの開発・提供 ○イベントの開催	
小石原川ダム		○体験プログラムの開発・提供	
夕張シューパロダム		△イベントの開催	

水源地域活性化調査では、各地域において組織の立ち上げや、地域資源の発見、情報発信、新規人材の確保・育成、計画策定など様々な取組が実施されてきました。また、各地域で実施された内容を整理すると、ほぼ全ての地域で実施されている内容や、一部の地域でのみ実施された内容などに分類することができました。実施した内容のうち、半数以上の水源地域で実施されている内容は、以下の8つでした。

- ①地域が一体となる組織の立上げ
- ②地域住民が懇談できる場の確保
- ③人と人、組織と組織の関係の構築・強化
- ④足元に眠っている宝の原石（地域資源）の発見
- ⑤どこで誰に売るのかを明確にするためのターゲットの設定
- ⑥商品の可能性を探るためのマーケティングの実施
- ⑦魅力ある商品の提供（商品化）
- ⑧商品の魅力情報の発信

これら8つのポイントは、それぞれ独立して存在しているわけではなく、それぞれが関連しあっています。

上記で示したポイントは、多くの地域で実施されている内容であり、8つのポイントのみを実施すれば水源地域が活性化するものではありません。

そのため、各地域の現状を踏まえて不足しているポイントを効果的に実施していくとともに、各地域ならではの課題を解決するためのポイントを見つけていく必要があります。【詳細は、「第3章水源地域活性化活動の実施手順の提案」をご覧ください。】

水源地域活性化活動を推進していくためのポイント

	組織の立上げ	場の確保	関係構築・強化	地域資源の発見	ターゲットの設定	マーケティングの実施	商品化	情報発信	新規人材の確保・育成	計画策定	施設整備
川治ダム	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
志津見ダム			○	○	○	○	○	○			○
嘉瀬川ダム	○	○	○	○	○	○	○	○			
平取ダム	○	○	○	○	○	○		○			
梁川ダム	○	○	○			○		○	○		
平瀬ダム	○	○				○				○	
日吉ダム			○				○			○	○
小石原川ダム	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
夕張スーパーダム	○	○	○	○							

■水源地域活性化活動を推進していく際の課題

水源地域活性化活動を推進していく際の主な課題としては、①活動を継続していくための資金の確保、②活動内容を向上させるための情報収集、③関係者をつなぐコーディネーターなどの人材確保、④関連団体や住民との関係の構築、⑤活動場所や地域住民が集まることができる場の確保、⑥効果的な情報発信手法の確立、⑦活動や情報の透明性の確保の7つが挙げられます。水源地域活性化調査の推進に共通して見られるこのような課題を解決していくことが、継続的な活動の実施につながります。

水源地域活性化活動の課題

阻害要因	事例
①資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益事業を実施していないため、行政等の補助金に頼らざるを得ない状況になっています（川治ダム）。</li> <li>・幌尻岳の登山シーズンでの山荘利用料となっており、シーズン外や登山時の情報提供などでも資金を獲得できる仕組みを構築する必要があります（平取ダム）。</li> </ul>
②情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政からの情報提供がないため、活動を実施するための情報を自分たちで収集していく必要があります（川治ダム）。</li> <li>・住民だけで助成金の情報を獲得し、申請書等を記載することは困難となっています（志津見ダム）。 →行政に相談することで、『産業振興』の一環として、活動に関連する助成金情報の提供や、申請へのアドバイスなどを得ています（志津見ダム）。</li> <li>・和紙づくりに関する専門的な知識・情報が不足しています（築川ダム）。 →活動団体だけで解決できない課題等を学識経験者に相談し、問題を解決するためのアドバイスを受けています（築川ダム）。</li> </ul>
③人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源地域活性化活動を推進していくためには、関係者をつなぐコーディネーターが必要となっています（志津見ダム）。</li> <li>・水源地域活性化活動に携わっているメンバーの多くが高齢者であり、マンパワーが不足しています（築川ダム）。 →活動を通してメンバーを獲得しています。また、若いメンバーがやりたいことを積極的にサポートしています（築川ダム）。</li> <li>・情報収集のための取材スタッフが不足しています（小石原川ダム）。</li> </ul>
④関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で単発の取組を実施するだけでは、地域住民や地域の各種団体との関係を構築することができませんでした（嘉瀬川ダム）。 →継続して地域のイベント等に参加することで、地域での信頼を獲得し、地域団体等と連携した活動が実施できています（嘉瀬川ダム）。</li> </ul>
⑤場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とよぬかの里の利用者が増加しており、需要に対しての供給量が不足しています（平取ダム）。</li> <li>・地域住民などが気軽に集まることができる施設を確保する必要があります（夕張シューパロダム）。</li> </ul>
⑥情報発信手法の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページなどで情報発信していますが、知名度が低いため、地域に情報が浸透していません（平瀬ダム）。</li> </ul>
⑦活動や情報の透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化活動は、地域住民が一同となって推進していく必要があります。しかし、全国には一部の人が、活動や会計の情報を独占し、情報の透明性が確保されていない事例も耳にします。意思決定の透明性や様々な情報の共有が不十分であるため、活動に対する不信感が広がり、活動が中断してしまう恐れがあります。</li> </ul>